



エコー・ちがさき



第75号
2016. 11. 1
文化生涯学習課

生涯現役応援窓口に寄ってみませんか？

楽しみを見つけませんか！
お仲間と、一緒に…

市役所の1階ロビーの一角にある「生涯現役応援窓口」を訪問しました。
生涯現役応援窓口では、セカンドライフコンシェルジュ（専門相談員）が、ボランティア活動・サークル活動の紹介や就労支援の相談業務などを行っています。

今回は、コンシェルジュの上田朋子さん（市民活動・趣味・ボランティア支援担当）と中川仁示さん（就労支援担当）にコンシェルジュとしての活動についてお話を伺いました。

セカンドライフをどう過ごそう・・・

就労・ボランティア活動・趣味などについて、あなたの活躍の場をセカンドライフコンシェルジュと一緒に探してみませんか。定年前でも、定年後でも、漠然と何かやりたいと思っている方でも、いつでもお気軽にお立ち寄りください。

自分らしく輝くセカンドライフを・・・

新しい自分といきがいをつくり出すための「セカンドライフセミナー」を開催しています。是非御参加ください。

セカンドライフコンシェルジュ（専門相談員）にお話を伺いました。

（上田朋子さん）私は、ボランティア活動や、市民活動、趣味サークル活動の紹介業務を主に担当しています。「やりたいことが固まっていない、相談窓口というと敷居が高い・・・」という方でも、まずは気軽に立ち寄っていただけたら嬉しいです。窓口に来て話をすることで何かしら見つかるということもありますし、私たちもその時の最新の情報を提供することが出来ます。また、セカンドライフセミナーにも気軽な気持ちで参加していただければと思います。セカンドライフセミナーに参加してから様々なことに挑戦するようになった方も多いです。

（中川仁示さん）私は担当している就労支援業務として、主にシルバー人材センターが受注した仕事の紹介や、新規受注先・雇用先の開拓をしています。定年前のお仕事とは別の職種に就くことが多く、新しい世界を知ることが出来ますし、地域とのつながりも強くなります。これまでコンシェルジュとして活動してきた中で、茅ヶ崎市に引っ越し間もない方が、転倒予防教室の受付を担当されたことで、知り合いづくりのきっかけになり、感謝の言葉を頂けたことがとても印象に残っています。定年後の方はもちろん、定年前の方にも是非窓口を御利用していただき、セカンドライフを考えていて頂けたらと考えています。

生涯現役応援窓口を活用して、自分らしく輝くセカンドライフを送りましょう！

【開設日時：火・木・金曜日の9時30分から15時まで】

【問 合 せ：生涯現役応援窓口 ☎070-1490-0680】



（写真左：中川さん、右：上田さん）



第20回ちがさきレインボーフェスティバル開催！

里山の自然を満喫してみませんか？ステージイベント、模擬店など多数の催し物があります。

日時：11月13日（日）10時～15時（荒天中止）

場所：神奈川県立茅ヶ崎里山公園

内容：ステージでの吹奏楽・郷土芸能、地元で採れた新鮮な野菜や果物の販売、模擬店、フリーマーケットなど

※当日は、無料送迎バスも運行します。詳細は、広報ちがさき 11月1日号を御覧ください。

問合せ：文化生涯学習課市史編さん担当



まなびの市民講師紹介

P2. 河野 素女さん（英語リトミック）

P3. 浅川 克彦さん（海外ボランティア）



発信します ホットな生涯学習情報

あなたの学びのお手伝い



もとめ
河野 素女さん(英語リトミック)

「音楽は生活の一部に、
英語はいつかのために」

音楽と英語に小さな頃から親しんでいた河野先生。取材の日は大雨でした。部屋に入れたときに綺麗な色のオーラを感じました。

美しいもの、お洒落なもの、色彩感のあるものが好きです、とのお話に納得でした。



【英語リトミックのすすめ】

リトミックは音楽を使って集中力、思考力、判断力、記憶力、想像力、表現力などの基礎能力の向上を図り、脳を刺激して可能性を引き出す教育方法です。

それに英語が加わると知らないうちに音楽と英語が同時に身につきます。生の音に合わせて歌や簡単な英語のフレーズに親しむうちにニュアンスを聞き取り体感として残ります。音楽の変化、強弱、速度、ニュアンスを体で表し視覚化します。「学んだ」よりも「体験した」が大切。綺麗な発音で歌うように英語を話すには音楽は効果的です。英語は顔の筋肉を使うのでスッキリしますよ。

小さなうちは恥ずかしさがなく自由に動くことができます。マラカス、スカーフ、タンバリン、



ピクチャーカード、フォニックスなど色々な道具や方法が表現の助けになります。音楽の中にサプライズがあると喜ばれるので変化をつけるなど工夫をしています。

私自身も子育てを経験していて母親のつらさが分かるので母子ともに楽しめてホッとする時間になると良いと思います。喜んでいる笑顔を見るのはとても嬉しいです。楽しんでほしいと思います。

【まなびの市民講師になったきっかけ】

講師になったきっかけは子育てをしている人の役に立ちたいという思いからです。子育てアドバイザーの勉強もしました。講師をしている知人がいて、話すのは苦手だけれど子ども相手ならできるかなと思いはじめました。講師は身が引き締まる思いがしますがバランスをとりながら続けようと思っています。

【まなびの市民講師以外の活動も】

絵本の読み聞かせボランティアをして乳幼児と母親に接する機会を大切にしています。研鑽を積みながら親子で楽しめるコンサートもしています。藤沢で0歳児のためのコンサートでは反応があり嬉しかったです。英語は小さい頃から好きでしたのでホストファミリーとして外国人留学生を受け入れたり、生の英語に触れる為にいろんな国の人々に会えるイベントを見つけて積極的に参加しています。

【河野さんにお話を依頼するには？】

主に0歳児から2歳児くらいまでの8組から10組までの親子を対象とされています。子どもが動き回れる広さの部屋で、ピアノがあれば良いですが、無くても可能だそうです。



河野 素女さんのご連絡先 ☎：0467-87-1510

「まなびの市民講師」の横顔

浅川 克彦さん（海外開発途上国ボランティア）

「セカンドライフとしての
海外ボランティアのすすめ」



【大手コンピュータメーカー勤務からJICAシニア海外ボランティアへ】

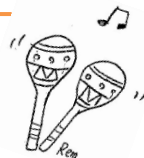
某大手コンピュータメーカーで開発などの業務に携わって来られた浅川さんは、定年が近づく頃、JICAには「自分の持っている技術、知識や経験を開発途上国の人々のために生かしたい、という強い意欲持つ40～69歳の方が応募できる」というシニア海外ボランティア制度があることを知りました。多年の組織人の生活から脱して、より自律的なセカンドライフを実現しようと考えていた浅川さんは、今まで培ってきたコンピュータに関わる技術・知識を活かして、開発途上国の成長・発展に貢献できることは、この上ない生きがいと思い、JICAシニア海外ボランティアになり、中米パナマや南米ウルグアイに赴任されて、eラーニングや、パソコンなどについての技術指導に従事されました。また同行された画家である奥様も現地小学校などでの絵画教育に尽力されました。

【シニアボランティアの仕事の魅力】

仕事で現地の人々と付き合うのですから、その国や社会の実情を知ることができます。また時には現地日本大使館での晩餐会で、大使と意見交換するなどの機会もあります。最高の幸せは現地の人々と友達になり、率直な会話が楽しめることで、こちらが教えたことや協力したことに、感謝と喜びを表してくれることだそうです。良い出会いは奇跡的な幸福ですから、きっと貴方の人生の宝となるでしょう。

【JICAのサポート】

赴任先は原則的には本人が選択できます。語学研修制度も整っています。経済生活には不足のない手当てが与えられます。また現地の治安の情報も提供されます。



【シニアボランティアになるための心構えなど】

JICAの審査に合格しなければなりません、それ以前に任務を全うするには先ず健康が第一です。安全には自己責任の意識が必要でしょう。語学力は必須ですが、目的は現地の人々を指導したり、彼等と協力して作業をすることです。自分が持っている技術・知識を相手に理解して貰うための努力が最重要です。そして常に率直な友人として接する態度でしょう。



【浅川さんにお話を依頼するには？】

人数に制限はありません。数人前後であれば会話形式で、多人数であれば講義形式で応じられるそうです。



ウルグアイの小学校で学童たちに、
パソコン操作を指導しているところ



浅川 克彦さんのご連絡先 ☎：0467-53-0152



私の第一歩



『書を通じて楽しい仲間づくり』

書道クラブ「泉会」

代表 田代雅昭さん

早、二十八年。書を習い始めてアッという間でした。60の定年を期に「動」から「静」へ方向転換でした。原口孝子先生の優しい指導のおかげで、何とか一人前になれたようです。会の雰囲気は和気あいあい、楽しんで書に親しんでいる現在です。よろしければ是非一度、顔を出して頂ければ幸いです。



漢字・仮名臨書と創作

書を楽しむ会です。初心者大歓迎。
お気軽にお越しください。

ご連絡先：0467-87-0296
日時：毎月 第1・3土曜日

会員数：20人
場所：鶴嶺公民館

会費：月額1000円

近ごろ思うこと

絵手紙サークル プライベート

藤林 昭子さん

「ヘタ」でいい「ヘタ」がいい。飾らずありのままに描く、これなら私も出来ると思い、始めた絵手紙。たった一人の人に向けて一生懸命に描いた物が結局は万人の心を打つのです。と。その心に感銘し、皆さんにその感動をお伝えしたいとお教室を開いて5年になります。お教室では「きれいに描けたね」「すてきだね」とお互いを認め励まし合い感動をわかち合っています。生徒さん達のお力をお借りしながら今年の秋には5周年記念展を開きます。先哲の言葉に、喜びと希望を与えていくほど自分の心は豊かになっていく、生き生きと弾んでいく、輝いていくからだ、とあります。絵手紙を通し一人を大切に暖かな心を届けていかれたらこれからの私の生き方もさらに豊かに広がっていくと思う昨今です。



街角



「幻像」

街並みが小糠雨に煙りかける或る秋の夕暮れ。
彼は駅ビルに買物に行くために家の近くのバス停にいた。バスは遅れていた。彼の後ろの女性が「前から待っていらっしゃるのですか?」と話しかけてきたので、「いや貴女が来られる少し前からです。」と彼は応えた。向こうの歩道を数匹の子犬を連れた夫婦が過ぎて行った。その微笑ましさから、彼女は愛犬の、そして彼は愛猫のと、それぞれのペットの習性などを語り合い、楽しく時間が過ぎてやがてバスが来た。席は離れたが駅前では一緒に降りた。彼女は「私は電車に乗りますのでお別れですね。」と云い、改札口の雑踏に吸い込まれていった。黒いコートのフードから覗かせた微笑みが彼の網膜に映じたのは、宵闇に浮かび上がる淡い色の薔薇のような幻像であった。彼はこの女(ひと)の面立ちを思い出せない。彼の耳に残ったのは「またお会いしましょうね。」と親しさの籠もった暖かい声であった。彼はそのバス停を日頃使うのだが、まだその女(ひと)に巡り会えない。「薔薇」はもはや現世(うつしよ)では逢えぬ、或る女性の幻であったのだろうか?

S/W

ひととき

短歌 (伊藤要次選)

祐ちゃんのちっちゃな寝床は宝島毛
布めくればボール飛び出す
石井 多壽子

雨の中ひたすら歩く無になつて心の
疲れが遠ざかるまで
由井 和子

俳句 (清水呑舟選)

アルプスの尾根をさ走るはたた神

栗原 幸子

松籟に耳そばだてる今朝の秋

夏目 真機

肌掛けを引き寄せてをり夜の秋

吉住 裕子

編集後記

編集委員になって、楽しみは素敵な人のインタビューです。市民講師の取材では講師自身の経験や考え方を伺いながら人柄までもが見いだせる気がします。

今回私は「生涯現役応援窓口」の2人のコンシェルジュの当たりの柔らかさと笑顔での対応が、不安を持ちながら相談に来る人を安心させるんだなと学ばせていただきました。



*未発表の短歌・俳句作品を募集しています。下記宛先へ12月1日(木)までにご連絡ください。

*次号(第76号)の発行予定は、平成29年2月1日です。

いつでも どこでも だれでも なにからでも

発行・編集 エコー・ちがさき編集委員会

〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号 茅ヶ崎市文化生涯学習部文化生涯学習課

TEL0467-82-1111(代表) FAX0467-57-8388 E-mail: bunkashougai@city.chigasaki.kanagawa.jp

PC用 URL <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/> 携帯用 URL <http://mobile.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

